

米山奨学事業へのご理解を

地区米山奨学委員会 委員長 内藤 篤

本日は卓話の要請をいただきましてお礼申し上げます。日頃よりの米山奨学事業へのご理解とご協力に感謝いたします。岐阜北クラブ様には過去10年に4名の奨学生のお世話をさせていただき、本年の4月からは岐阜大学の金さんをお世話いただきたくお願いをいたしているところです。当時のカウンセラーの皆様、ありがとうございました。

私は06年より3年間委員を務め、09年に副委員長、本年は委員長を務めており次期も委員長の予定です。

奨学生を選び出す手順は、まず7月に推薦指定校と推薦者数を決めます。8月には、次期委員会構成をします。11月には面接官を決め、1月には面接選考、4月から奨学金の支給を始め、5月に米山カウンセラーセミナーを開催し、合わせて奨学生と指導教官に来てもらいオリエンテーションを行います。9月に中間激励会、2月に終了歓送会を行います。

RIのクリンギンスミス会長のテーマは、「地域を育み、大陸をつなぐ」であり、地区の桑月ガバナーのテーマは、「ともに生きる」であります。共通する点として、「次世代の指導者の育成」が挙げられると思います。「米山奨学事業は日本のロータリーの誇り」であります。事業推進者は米山記念奨学会でもなく地区委員会でもなく、まさに日本のロータリアンのお一人お一人なのです。奨学会や地区委員会は個々のロータリアンの事業推進のお手伝いにすぎません。奨学金は、恵まれない者に愛の手をではありません。優秀な留学生に更なる優秀さを求めて奨学金を支給するのは、世話クラブやカウンセラーに鍛えていただき、次世代の指導者として育成していただくのです。そのためにご自分で事業を推進していただきたいのです。

岐阜北クラブ様は昨年7月から本年1月までの寄付金累計は30万円であり、一人平均額では地区平均の7千円強を上回っておられます。

地区委員会として、個々のロータリアンの事業推進のお手伝いを一生懸命させていただく所存ですので、宜しく願いいたします。一人でも多くの次世代の指導者を育てるべく、奨学金の基となる寄付金を宜しく願いいたします。

最後になりましたが、岐阜北クラブ様の益々のご発展をご祈念申し上げます。ご静聴ありがとうございました。